県海岸保全基本計画検討委

鹿児島湾 施設整備計画示す

人工島による環境の影響も審議した委員会
＝鹿児島市の県庁で

第4回県海岸保全基本計画検討委員会（委員長・佐藤道郎鹿児島大学工学部教授）は30日、鹿児島市の県庁で開き、鹿児島湾沿岸海岸基本計画案について審議した。この中で、委員から湾奥部の環境についての質問や人工島の建設に伴う環境への影響、具体的な施策が見えにくいなどの意見があった。当局は湾岸奥の環境に対し市町村等との連携をとりながら公共下水道の整備を進めることが必要であり、人工島の建設に伴う環境への影響は公有水面の埋め立て前に環境予測等も実施しているなどと答えた。また、同沿岸における地区ごとの保全施設整備計画を示した。

委員会では、延長約314㌔の鹿児島湾沿岸の海岸保全と海岸保全施設整備に関する基本的な事項や海岸防護、海岸環境の整備及び保全、海岸における公衆の適正な利用などに関する長期的なあり方、海岸保全施設の整備等の説明があった。

基本計画案に盛り込まれたゾーン別の海岸保全施設の種類等は次の通り（①種類②延長）。

【錦江湾西岸ゾーン】
▽宮ケ浜港海岸宮ケ浜地区＝①離岸堤、突堤、護岸②700m
▽喜入南海岸喜入南地区＝①離岸堤②330m
▽喜入港海岸喜入北地区＝①離岸堤②100m

【鹿児島臨海ゾーン】
▽野尻港海岸野尻地区＝①消波工、胸壁②260m
▽湯之持木港海岸湯之持木地区＝①消波工、胸壁②108m
▽古里港海岸古里地区＝①堤防、消波工②55m
▽高免港海岸高免地区＝①消波工、堤防②80m

【錦江湾湾奥ゾーン】
▽姶良海岸松原地区＝①堤防、護岸、突堤②807m
▽加治木振興地区＝①消波工、水門、樋門、護岸、突堤、人工海浜②1200m
▽隼人海岸真孝地区＝①消波工、護岸②244m
▽隼人海岸住吉地区＝①消波工、護岸②216m
▽国分海岸国分地区＝①消波工、水門、樋門、護岸②2500m
▽国分海岸下井地区＝①昇降口、階段工、護岸、人工海浜②782m
▽福山海岸福山地区＝①護岸、植栽工②300m

【錦江湾東岸ゾーン】
▽垂水海岸垂水地区＝①離岸堤②500m
▽垂水南漁港新城地区＝①離岸堤②100m
▽新城海岸新城地区＝①離岸堤、突堤、養浜工②500m
▽荒平海岸荒平地区＝①人工リーフ②210m
▽高須港海岸高須地区＝①離岸堤②140m
▽神之川海岸神之川地区＝①人工リーフ、養浜工、離岸堤、緩傾斜護岸②220m
▽大根占港海岸神之川地区＝①潜堤、人工リーフ②1126m
▽馬場海岸馬場地区＝①離岸堤②965m
▽片野坂海岸片野坂地区＝①護岸②92m
▽伊座敷海岸伊座敷地区＝①人工リーフ②100m

県土地家屋調査士会

交通遺児へ愛の献金

県土地家屋調査士会（永田敏行会長）は30日、市内にある同協会を訪れ、田博明同会常任理事が県たすけあい協会（米盛庄司理事長）を訪れ、チャリティーゴルフ大会で得た益金等を交通遺児援護事業活動に役立てていただきたいと同協会に寄付した。

同会から交通遺児への献金は、平成元年から行われており、今回は、10月7日に行ったチャリティーゴルフ大会で得た益金10万9400円を寄付したもので、今回で15回目となる。

当日は、永田会長と益田博明同会常任理事が県たすけあい協会を訪れ、出口事務局長に対して、出口事務局長は「県内には358人もの交通遺児がおり、全員に対し激励金や図書券の贈呈、入学祝い・卒業祝い金、新入学児へのランドセル等を贈って激励しています。皆様から頂く献金は欠かせない大きな力となり、毎年、貴重な寄付を頂き感謝しております」と謝辞を述べ、感謝状を授与した。

永田会長は「交通遺児のために少しでも役立てれば幸いです。今後もできる限り続けていきたい」を手渡した。

感謝状を受け取る永田会長（右）
＝鹿児島市の同協会で

県建設業協会出水支部ゴルフ大会

鶴長さんが優勝

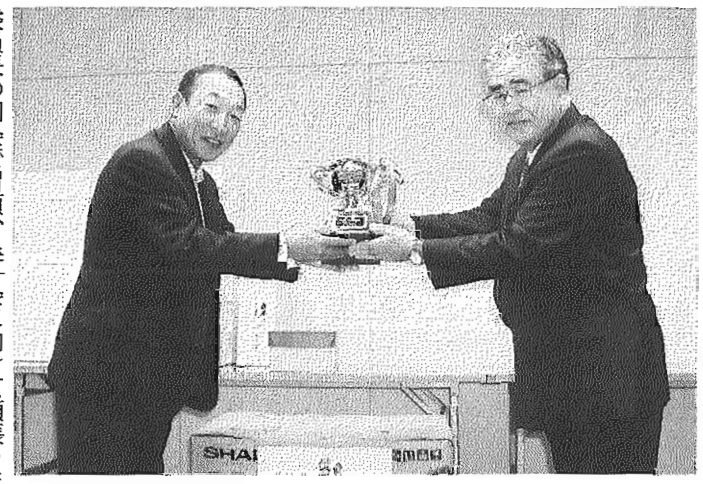
県建設業協会出水支部（桑木行喜支部長）は29日、出水市の出水ゴルフクラブで第39回建設業関連親善ゴルフ大会を開き、秋晴れのゴルフ日和の下、72人が参加して熱戦を繰り広げた結果、鶴長親雄さん（㈱長崎組）が優勝した。

当日は、午前9時30分に集合した参加者を前に、同大会の門田孝一実行委員長が「親睦を深めながらもマナーとルールを守り、大いに楽しんで下さい」と挨拶した後、アウト・インに分かれてスタート。気心知れた参加者は和やかにプレーを満喫し、ダブルペリア方式のハンディキャップにも恵まれた鶴長さんが、アウト37イン38のグロス75、ネット70・2で見事、優勝カップと副賞の25型カラーテレビを手中に収めた。

表彰式は、軽妙な門田委員長の司会で冒頭、桑木支部長が「古家康博副支部長が27日に逝去された。氏の功績を称えると共に哀悼の意を表したい」と語った後、「本日は大いに親睦を深めていただいたと思う。厳しい状況ではあるが、来年春の大会に向けて頑張りましょう」と挨拶。早速、表彰に移り、当日賞、大会賞やたくさんの飛び賞も設けられ、後位から順番に名前を呼ばれ海産物などの賞品を手にしていた。優勝した鶴長さんは「パートナーと隠しホールに恵まれ、毎回、参加して39回目で優勝できました」と、優勝の喜びを語った。

主な成績は次の通り。

優勝＝鶴長親雄▽準優勝＝井川明（クキタ㈱）▽3位＝茂原真琴（ホテルキング）▽4位＝坂東憲幸（有坂東組）▽5位＝西崎俊雄（有西崎建設）▽ホールインワン賞＝谷口浩幸



桑木支部長より優勝カップを受ける
鶴長さん（左）＝出水市の出水ＧＣで

谷口浩幸さん

谷口さんがホールインワン

また同日は、15番ショートホールで谷口浩幸さん（永和測量設計㈱）が大会2人目のホールインワンを達成し、特別賞が贈られた。

成政建設工業

平出水川に鯉の稚魚放流

地域住民に感謝込め

成政建設工業㈱（成政准一社長、伊佐郡菱刈町）は30日、大口市の平出水川で鯉の稚魚約500匹を放流した。上流の護岸工事完成を機に、日頃騒音などで迷惑をかけている地域住民への恩返しにと、川内川上流漁業協同組合（黒木勝吉組合長）の協力で実施したもの。放流には、発注者の大口土木事務所からも、京田利明河川砂防係長ら3人が立ち会った。

鯉を放流したのは大口市立平出水小学校の全児童32人。堤防に集合した児童らを前に、成政社長は「無事工事が終った感謝の気持ちから鯉を放流することにしました。皆さんのいい思い出になればうれしいです」と挨拶。同社ではこれまで、工事完成後に河川清掃等を行っていたが、鯉の放流は初めて。

児童らは、漁協役員の伊伏睦夫さんや、京田係長、堀元恵夫技術主査から、川に住む魚の種類や河川工事などについて説明を受けた後、堤防から川に渡した樋に、鯉の稚魚をバケツで次々と放流した。

銀鱗をきらめかせて流れて行く鯉に、児童らは歓声を上げながら「元気でね」などと声をかけていた。放流した鯉の中には、体重4㌔以上の物もあった。

最後に同小学校1年生の鵜木彬君が「僕は魚が大好き。川も喜んでいるでしょう」と作文を読み上げ、徳石秀二教頭も「自然に親しむいい機会を作ってくださってありがとうございます。今後子供達が世話をすることもあると思います」と感謝の言葉を述べた。

鯉を放流する平出水小学校の児童
＝大口市の現地で